

# 大阪商業大学学術情報リポジトリ

## JGSS-2015 および EASS 2014 Work Life モジュールの作成—プリテストの結果と調査票の確定—

メタデータ	言語: ja 出版者: 日本版総合的社会調査共同研究拠点 大阪商業大学JGSS研究センター 公開日: 2019-06-19 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://ouc.repo.nii.ac.jp/records/682">https://ouc.repo.nii.ac.jp/records/682</a>

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



## JGSS-2015 および EASS 2014 Work Life モジュールの作成 —プリテストの結果と調査票の確定—

岩井 紀子  
大阪商業大学総合経営学部

上ノ原 秀晃  
大阪商業大学 JGSS 研究センター

The Development of JGSS-2015 and EASS 2014 Work Life Module

Noriko IWAI  
Faculty of Business Administration  
Osaka University of Commerce

Hideaki UENOHARA  
JGSS Research Center  
Osaka University of Commerce

This article outlines the development of the JGSS-2015 questionnaire. JGSS-2015 is based on a JSPS KAKENHI Project “Work-Life Balance and Sustainability in East Asia.” The questionnaire consists of 1) questions adopted from EASS 2014 Work Life Module—a cross-national survey project among Japan, Korea, China and Taiwan, 2) questions that JGSS added in relation with EASS Work Life Module, 3) questions adopted from ISSP 2015 Work Orientation Module, 4) JGSS-specific questions relevant to contemporary social issues in Japan, and 5) repeated questions of the JGSS surveys. The questionnaire has been constructed through discussions both among Japanese research team members and with other EASS teams, and based on the JGSS pretest results.

Key words: JGSS, EASS, Work Life Module

本稿では、日本版総合的社会調査 2015 (JGSS-2015) の調査票の作成について報告する。JGSS-2015 は、科研費プロジェクト「東アジアにおけるワークライフバランスと社会の持続可能性」の研究課題の設問を中心としている。調査票は、1) 韓国・中国・台湾との共同プロジェクトである東アジア社会調査 (EASS) 2014 Work Life モジュールから採用した設問、2) EASS モジュールに関連して JGSS が独自に追加した設問、3) ISSP 2015 Work Orientation モジュールから採用した質問、4) 時事的な問題関心を踏まえた日本独自の設問、5) JGSS の主要な継続設問が含まれている。科研費チームで協議を重ね、EASS の他チームとの討議、さらに、2014 年 8 月～9 月に実施したプリテストの結果をふまえて、調査票を確定した。

キーワード : JGSS, EASS, 仕事と生活モジュール

## 1. はじめに

日本版総合的社会調査共同研究拠点 大阪商業大学 JGSS 研究センターでは、日本人の意識や行動の現状と変化を明らかにするために、2000年以降、9回の全国調査を実施してきた。2006年以降は、東アジア社会調査 (East Asian Social Survey : EASS) プロジェクトに参加する韓国・中国・台湾と共通するモジュール (設問群) を組み込んで、東アジアでの国際比較の視点を取り入れている。

第10回目となる JGSS-2015 については、EASS モジュールのテーマは2011年11月に決まり、モジュールの作成が進められた。一方、そのモジュールを組み込む JGSS 本体の調査費は、2014年4月に目途が立ち、調査票全体の設計を経て、2015年2月に、4月までの予定で実査を開始した。

本稿では、EASS 2014 Work Life モジュールを含む JGSS-2015 調査票の作成過程について報告する。次節では、EASS のモジュール作成過程について、第3節では、JGSS 独自の調査項目の確定過程について、第4節では、JGSS によるプレテストの結果について、第5節では、JGSS-2015 の調査票の最終確定について紹介する。

## 2. EASS 2014 Work Life モジュールの作成

2003年にスタートした EASS は、日本・韓国・中国・台湾が共同で進めている社会調査プロジェクトである。東アジア社会に特有の問題や関心に基づいて、4カ国・地域に共通するモジュールを作成し、国際比較分析が可能なデータを構築し、公開することを目的としている。日本・韓国・中国・台湾のそれぞれで総合的社会調査を企画・実施している研究機関が協力して進めており、日本は Japanese General Social Surveys (JGSS : 大阪商業大学 JGSS 研究センター)、韓国は Korean General Social Survey (KGSS : 成均館大学サーベイ・リサーチ・センター)、中国は Chinese General Social Survey (CGSS : 中国人民大学 National Survey Research Center・西安交通大学実証社会科学研究所)、台湾は Taiwan Social Change Survey (TSCS : 中央研究院社会学研究所) がこれにあたっている。

EASS では、2006年から2年に1回のペースで調査を実施し、調査ごとにテーマを設定している。これまでの調査テーマは、第1回調査である EASS 2006 は「東アジアの家族 (Families in East Asia)」、第2回調査の EASS 2008 は「東アジアの文化とグローバリゼーション (Culture and Globalization in East Asia)」、第3回調査の EASS 2010 は「東アジアにおける健康と社会 (Health and Society in East Asia)」、第4回調査の EASS 2012 は「東アジアにおけるネットワークと社会関係資本 (Network Social Capital in East Asia)」である。第5回調査にあたる EASS 2014 のテーマは「東アジアにおける仕事と生活 (Work Life in East Asia : WL モジュール)」である。

EASS 2014 モジュール作成のスケジュールは、表1のとおりである。今回のモジュールのテーマを Economic Aspects of Social Life (社会生活の経済的側面) とすることは、2011年11月の台湾での General Meeting (GM) において決定された。その後、2012年6月に大阪で開催された Drafting Meeting (DM) までに、各チームは具体的なトピックとして、「職業意識」「余暇とスポーツ」「経済危機の影響」「格差・不平等・社会移動」「起業志向」「貯蓄と消費」「within-network market exchange」「健康」「社会的対立 (階級対立と世代間対立)」「福祉社会と市場社会」の案を提出した。EASS 2014 の議長は、KGSS の KIM Sang-Wook であり、彼は、2012年1月～2013年12月まで、EASS の事務局長でもあった。大阪 DM とその後の議論をへて、2012年11月の西安 GM において、議長の KIM Sang-Wook から、「職場における公正と雇用慣行」「仕事・家族・余暇」「世界的な経済危機」「格差・不平等・社会移動」「起業志向」「職場における家族主義」「貯蓄と消費」「社会政策争点：世代・市場・国家」「肉体的・精神的健康」のサブトピックを含むモジュールの草案が提示された。モジュールタイトルを「Work Life in East Asia」とすることも西安会議において決定された。その後、草案をもとに、2013年のソウル DM (6月)、北京 GM (11月)、2014年の横浜 DM (7月) で協議し、8月～9月に JGSS が実施したプレテストの結果を踏まえて、10月のソウル DM を経て、2014年11月に最終的なモジュールを確定した。EASS 2014 を確定した EASS の事務局長 (2014年・2015年) は、TSCS の Chin-fen CHANG である。

表 1 EASS 2014 Work Life Module を含む JGSS-2015 調査票作成の過程

日程	実施主体・開催地	内容
2011.11.17-19	EASS GM (台北)	テーマ決定 [JGSS 参加メンバー: 岩井(紀)・仁田]
2012.3	WL モジュール議長	各チームから寄せられたサブトピックの案を取りまとめ
2012.6.11	EASS DM (大阪)	各国からの提案をもとに、質問項目、モジュールタイトルについて検討 [JGSS 参加メンバー: 岩井(紀)・仁田・佐々木・岩井(八)・宍戸]
2012.11.15-16	EASS GM (西安)	WL 議長がモジュールの草案を提示; 質問項目とモジュールのタイトルを検討; 各チームが 12 月末までに修正案を提示し、オンラインで議論することで合意 [JGSS 参加メンバー: 岩井(紀)・佐々木]
2013.5.23-25	EASS DM (ソウル)	質問項目を検討 [JGSS 参加メンバー: 岩井(紀)・佐々木]
2013.10.25-26	EASS GM (北京)	質問項目を検討 [JGSS 参加メンバー: 岩井(紀)・佐々木]
2013.11.25	WL モジュール議長	北京会議での議論を基にモジュールの草案を修正
2014.4.1	JGSS	JGSS-2015 調査費の目途が付き、EASS 2014 への参加を決定
2014.6.17	日本チーム研究会(大阪)	WL のうち JGSS で実施する項目の検討と関連する JGSS 独自項目の作成
2014.6.24	日本チーム研究会(大阪)	WL のうち JGSS で実施する項目の検討と関連する JGSS 独自項目の作成
2014.7.1	日本チーム研究会(大阪)	WL モジュールについて、EASS DM (横浜) で示す JGSS 案の作成
2014.7.5	日本チーム研究会 (東京)	WL モジュールについて、EASS DM (横浜) で示す JGSS 案の検討 [JGSS 参加メンバー: 岩井(紀)・仁田・岩井(八)]
2014.7.7	ISSP	ISSP 2015 Work Orientations モジュール確定
2014.7.11	日本チーム研究会(大阪)	WL モジュールについて、EASS DM (横浜) で示す JGSS 案を確定
2014.7.14	EASS DM (横浜)	質問項目を検討 [JGSS 参加メンバー: 岩井(紀)・佐々木・宍戸・岩井(八)]
2014.8.10	日本チーム研究会 (高槻)	JGSS-2015 プリテストの質問票を決定 [岩井(紀)・仁田・宍戸・佐々木・岩井(八)・埴淵・川口(メール参加)]
2014.8-9	JGSS 第1回プリテスト	全国; 20~69 歳男女 300 人; マスターサンプルを用いた割当抽出法(性別・年齢・地域); 郵送法
2014.10.1	日本チーム研究会(大阪)	プリテストの結果を踏まえ、WL についての JGSS 案を確定
2014.10.2-3	EASS DM (ソウル)	JGSS のプリテストの結果を踏まえ、質問項目を検討 [JGSS は欠席; プリテスト結果と修正案送付]
2014.11.11	日本チーム研究会(大阪)	プリテストの結果を踏まえ、JGSS 項目の検討
2014.11.14	日本チーム研究会(大阪)	プリテストの結果を踏まえ、JGSS 項目の検討
2014.11.17	EASS 事務局長	ソウル会議での議論を踏まえ、モジュールの確定版を提示
2014.11.18	日本チーム研究会(大阪)	WL モジュールの確定を踏まえ、関連する JGSS 独自項目の検討
2014.11.26-12.16	JGSS 第2回プリテスト	大阪商業大学および京都大学の学部生・院生とその家族を対象に実施
2014.12.2	日本チーム研究会(大阪)	EASS モジュールとモジュール関連設問と JGSS 設問の修正
2015.1.9	日本チーム研究会(大阪)	EASS モジュールとモジュール関連設問と JGSS 設問の修正
2015.1.27	日本チーム研究会(大阪)	EASS モジュールとモジュール関連設問と JGSS 設問の修正
2015.1.14	KGSS	調査資金が確保できず、EASS 2014 の実施を断念することを各チームに通知
2015.1.28	JGSS	JGSS-2015 調査票確定
2015.2-4	JGSS	JGSS-2015 実査: 20-89 歳男女 4500 人(300 地点)、層化 2 段無作為抽出法、面接・留置調査法併用
2015.4	CGSS	プリテスト実施予定: 北京市、安徽省、18 歳以上男女 300 人、層化 2 段無作為抽出法、面接調査法
2015.4	TSCS	プリテスト実施予定: 18 歳以上男女 310 人、層化 3 段確率比例抽出法、面接調査法
2015.6	TSCS	TSCS 2015 実査予定 (ISSP 2015WO と EASS 2014WL モジュール含む)
2015.7	CGSS	CGSS 2015 実査予定 (ISSP 2015WO と EASS 2014WL モジュール含む)

今回のモジュール作成は、EASS の過去のモジュール作成とは、いくつかの点で異なる。第 1 に、International Social Survey Programme (ISSP) 2015 のテーマが「Work Orientations (職業意識; WO)」であり、EASS のテーマと重なったことである。日本以外の 3 チームは、各国における ISSP 調査を担当しており、質問の重複を避けるために、ISSP 2015 モジュールの確定(2014 年 7 月 7 日)を待つ必要があった。ISSP の WO モジュールは、1989 年、1997 年、2005 年と、過去に 3 回尋ねられているので継続設問が多い。しかし今回、新たに追加される設問や既存設問についても修正される可能性があった。なお、EASS 2014 の議長である KGSS の Sang-Wook KIM は、ISSP の WO モジュールの作成委員会の委員でもあった。

ISSP と EASS のテーマの重複は、ISSP 2011 Health モジュールと EASS 2010 Health モジュールにおいても生じている。その際は、ISSP と EASS のモジュールを同一の調査票に組み込んだのは TSCS のみで、KGSS と CGSS は、2 つのモジュールを異なる年度の調査票に組み込んだ。しかし、今回は、TSCS のみならず、KGSS も調査資金の問題から、2 つのモジュールを 2015 年に実施する調査に組み込むことを決め、CGSS も TSCS と KGSS に追随したため、より深刻な問題となった。

EASS と ISSP のテーマの重複は、EASS モジュールの確定の時期の遅れだけではなく、EASS のプリテストの実施時期にも影響を与えた。EASS と ISSP はいずれも、本調査前にプリテストで、オリジナルの英語からの訳が適切であるかどうかの確認を行うことになっている。JGSS 以外の 3 チームは、プリテストを ISSP のモジュール確定後の 4 月に実施することにしており、今回は 2015 年 4 月にあたる。しかし、この時点では JGSS の本調査はすでに始まっており、JGSS 以外の 3 チームのプリテストの結果は、EASS 2014 モジュールの改良に反映させることができない、というスケジュールであった。

EASS と ISSP のテーマの重複は、スケジュール以外にも、JGSS にとって、複雑な問題を発生させた。EASS の WL モジュールは ISSP の WO モジュールと重複しないように、むしろ互いに補完するような設計が目指された。したがって、ISSP 調査を実施しない JGSS においても、ISSP の WO モジュールのうち、EASS の WL モジュールと関連のある設問をある程度は組み込む必要があった。そのため、日本において ISSP 調査を実施している NHK 放送文化研究所の担当部署に事情を説明して、ISSP の WO モジュールの継続設問だけではなく、新規設問の一部を JGSS-2015 に組み込むことについて了承を得た。

これまでの EASS モジュール作成とは異なる 2 つ目の点は、JGSS の調査資金確保の問題であった。JGSS は 2014 年 4 月に至るまで調査資金の確保の目途が立たなかったため、従来は、他のチームに先駆けて実施しているプリテストを 2014 年 8 月まで実施することができなかった。さらに、EASS モジュールを組み込むようになった JGSS-2006 以降、留置調査票を A 票と B 票に分割して、B 票をもつばら EASS 関係の設問にあててきたが、JGSS-2015 では調査資金の制約によりサンプルの規模を半分に縮小せざるを得ず、留置調査票は 1 種類にとどまる。そのため、EASS の WL モジュールのすべての質問項目を組む込むことができなかった。

これまでの EASS のモジュール作成と異なる第 3 の点は、韓国チームが実査を行うことができないことである。KGSS は EASS Data Archive (EASSDA) を運営するなど EASS プロジェクトにおいて重要な役割を果たし、WL モジュールの作成においても議長として大きく貢献していた。しかし、KGSS 本体の調査資金の確保ができず、2015 年 1 月に調査の実施を断念した。ただし、EASS 2014 モジュールには、KGSS の過去の設問がいくつか含まれており、まったく比較ができないわけではない。

このように、EASS 2014 モジュールは従来と比べて、確定が大幅に遅れ、プリテスト結果の反映が JGSS のみになり、比較できる項目が大幅に減少し、韓国のデータがとれないという点が異なっている。

### 3. JGSS-2015 の研究課題

前節で述べた EASS 2014 WL モジュールは、JGSS-2015 の調査票の一部にすぎない。2000 年に開始した JGSS の調査内容は、継続設問、時事設問、公募設問、東アジア共通設問 (EASS モジュール) から構成されている。JGSS 研究センターは、2000 年以降、「学術フロンティア推進拠点」(1999 年～2003 年；2004 年～2008 年)として、さらに「共同利用・共同研究拠点」(2008 年～2012 年；2013 年～2018 年)として文部科学省から認定され、「学術フロンティア推進事業」ならびに「特色ある共同研究拠点の整備の推進事業」による助成を受けて全国調査を実施してきた。一方、JGSS-2015 は、科学研究費補助金 基盤研究 (A)「東アジアにおけるワークライフバランスと社会の持続可能性に関する総合的研究」(JSPS 科研費 26245060；研究代表：岩井紀子；2014 年～2016 年)と大阪商業大学の支援を受けて調査を実施する。したがって、JGSS-2015 は、「総合的社会調査」としての性格は保ちつつ、科研費プロジェクトに参加する研究者の研究課題を組み込む調査となり、公募設問は組み込まない。

上記の科研費プロジェクトは、短期間に工業化を進めた結果として、急激な少子高齢化と環境問題に直面している東アジアの社会において、人々がどのようにワークライフバランスを獲得し、社会の

持続性を図ろうとしているかを主要な研究課題としている。加えて、日本については、東日本大震災と福島第一原子力発電所事故を契機として、議論が活発化しているエネルギー政策、さらに、災害に対する人々の意識や地域の対応力についても課題としている。これらはいずれも、日本の将来に向けての社会の持続性と関連する問題である。具体的には、女性の就業、育児・教育責任、高齢者の生活費・介護責任、地域コミュニティの直面している問題、再生可能エネルギーの利用、節電行動、自然災害・環境、汚染のリスク認知、地域の対応力について検討する。

JGSS-2015 の調査票の設計は、2014 年 6 月に開始した。科研費のメンバーのうち、大阪商業大学 JGSS 研究センターの研究者である岩井紀子、宍戸邦章、佐々木尚之を中心として 3 回の会議をもち、科研費のほかのメンバーである谷岡一郎（大阪商業大学）、仁田道夫（国士舘大学）、川口大司（一橋大学）とメール審議を重ねて検討を進めた。前述したように、JGSS-2015 では、予算の問題から留置調査票が 1 種類であるため、そこに、JGSS の継続設問と科研費の課題に関連する設問—時事設問、EASS モジュール、EASS モジュールに関連する ISSP モジュール、EASS に関連する JGSS 独自設問—をすべて組み込まなくてはならない。必然的に、EASS と ISSP についても組み込める設問の数は非常に限定され、EASS と ISSP 双方のモジュールの設問から JGSS の研究関心に沿うものだけを選択的に取り入れた。

7 月 5 日には Work Life の専門家である岩井八郎と仁田道夫を交えた調査設計会議を東京でもち、EASS と ISSP モジュールのうち、JGSS が組み込む設問を選択し、JGSS の修正案を作成した。ISSP の WO モジュールが 7 月 7 日に確定されたことを受けて、JGSS の修正案をもう一度見直し、横浜での EASS Drafting Meeting に臨んだ。横浜会議では、EASS 2014 の議長である KIM Sang-Wook が、2013 年 11 月に示された案からの変更をほとんど認めず、JGSS の修正案はほとんど受け入れられなかった。

科研費のメンバーは、8 月 10 日に大阪で調査設計会議を開催して、JGSS-2015 の調査票の全体像をほぼ確定し、そこから第 1 回プリテストで検討する設問を選択して、プリテストの調査票を決定した。前述したように、EASS プロジェクトでは、モジュールを最終的に確定する前に、4 チームがそれぞれプリテストを実施する。また、JGSS プロジェクトにおいても、調査票を確定する前にプリテストを行い、その回答分布や回答パターンを基に、設問の選択肢やワーディング、設問の順序を確定する。

JGSS-2015 の設問の多くは、過去の調査において採用された設問であり、時系列的な比較が可能である。一方、科研費の課題に関する設問を中心として、今回新たに追加した設問や項目もある。

## 4. JGSS-2015 第 1 回プリテスト

### 4.1 プリテストの設計と調査項目

JGSS-2015 の第 1 回プリテストは 2014 年 8 月～9 月に実施した。調査会社の登録モニターの中から、性別と年齢と居住地域を基準とした割当法(男/女; 20 歳代/30 歳代/40 歳代/50 歳代/60 歳代; 北海道・東北/関東/中部/近畿/中国・四国/九州)で 300 人を抽出した。2015 年 8 月に調査票を郵送し、郵送で回収した。有効回収数は 168 であり、回収率は 56.0%であった (2014 年 10 月 2 日時点)。

プリテストの調査票は 49 問からなり、設問は以下の 5 つに分類できる。表 2 にその一覧を示す。

- A) EASS 2014 WL モジュール案から採用した設問
- B) EASS のモジュール設問に関連して、JGSS が独自に追加した設問
- C) ISSP 2015 WO モジュールから採用した質問
- D) JGSS の研究課題や時事的な問題関心を踏まえた日本独自の設問
- E) 基本的な属性に関する質問と調査対象者の振り分けに必要な設問

表2 JGSS-2015 プリテストのトピック一覧

A) EASSモジュールより追加		C) ISSPモジュールより追加		D) 時事的設問等	
14	所得格差が拡大している	6	職業観	15	地域の存続に不安
16	退職年齢の希望	7	仕事における重要なこと	24	カジノ合法化に対する賛否
18	起業意思	8	仕事における男女均等	25	ギャンブル/パチンコ:頻度
19	資産総額	9	労働組合の必要性	26	ギャンブル依存:ウツをついた
20	受けた遺産・贈与の総額	10	ハラスメントの経験	27	ギャンブル依存:大きな賭け
23	正社員として勤務した会社の数	11	回答者の経済状況	28	自分の墓の希望
35	非正規社員の割合	12	5年前の回答者の経済状況との比較	29	墓の維持管理
36	女性社員の割合	13	5年後の回答者の経済状況の見通し	30	集団的自衛権への賛否
37	収入の妥当性	21	公的年金の負担と給付のバランス	31	居住地域における深刻な問題
38	勤務先の雇用慣行	41	学校で学んだこと/仕事で身につけた経験 や技能が現在の仕事で役立っているか	32	夫婦の家計管理
40	求職活動の内容			E) 基本属性など	
B) EASSモジュールに関連して独自に追加		44	収入と労働時間のバランス	1	性別
17	怒鳴られた経験	45	現在の仕事の特徴	2	年齢
22	老後に対する不安	46	仕事と家庭生活のバランス	3	居住地域
39	1週間連続して休めるか	47	仕事の技能を高めるための教育	4	同居者
42	学校教育は勤務内容に見合っているか	48	雇用先に対する愛着	5	最終学歴
43	仕事上の能力は勤務内容に見合っているか	49	仕事に対する満足度	33	先週の就労経験
				34	雇用上の地位

註: 数字はプリテストの設問番号。グレーの背景は、本調査で採用を見送った項目を示す。詳細は後述。

#### 4.2 EASS WL モジュールから JGSS-2015 の第1回プリテストに採用した項目

EASS WL モジュール案からの設問の採用にあたっては、日本において意味のある情報が得られると日本チームが判断した設問を選択した。また採用した場合にも、質問文や選択肢を改良したケースが少なくない。以下、モジュールのサブトピック別に、設問の選択と追加、改良の状況を示す。サブトピックはカッコ内の「Q\*\*」はプリテストの質問番号である

##### (1) 職場の公正と雇用環境

モジュール案には、職場における分配の公平性と手続きの公平性に関わる設問、および職場の雇用慣行に関わる設問が含まれていた。KGSS の過去設問から提案された。このうち、分配の公平性に関する設問は、「報酬 (reward)」が実績に見合ったものであるかを問う質問であるが、「報酬」の意味が多義的でダブルバーレルの余地があることから、金銭的報酬に限定した表現に改めた。また、選択肢は「very fair」から「very unfair」ではなく、「もらいすぎ (too high)」から「不十分 (too low)」の5択とした (Q37)。そのほか、項目に「労働時間」と「学歴」を付け加えた。手続き的公平性に関する設問については、人事上の決定が従業員の意見を反映しているかを問う小問のみを採用した (Q38A)。

雇用慣行については、「従業員が希望する期間働くことができるか」という設問は、日本においては正規雇用/非正規雇用の区別の問題にほかならないため除外し、女性の雇用環境や休暇の取りやすさなどの質問を採用した (Q38)。このほか、職場における非正規雇用従業員の割合 (Q35) と女性従業員の割合 (Q36) を問う設問を加えた。

##### (2) 世界的な経済危機

世界的な経済危機 (リーマンショック) に関する設問はプリテストには含めなかった。

##### (3) 格差・不平等・社会移動

社会における所得格差の大きさに関する設問と、対象者が15歳の頃の世帯収入の相対的評価に関する設問をモジュールから採用した。就職機会が世代間で異なるかどうかに関する設問と子ども世代の生活水準に対する見通しに関する設問は除外した。所得格差に関する設問は、モジュール案では「自国の所得格差は大きい」という意見への賛否を問うものとなっていたが、「大きい」の基準が不明確であるため、プリテストでは「所得格差は拡大している」に改めた (Q14)。

退職年齢と男女の均等待遇に関わるモジュールの設問は除外したが、希望する退職年齢を具体的に問う設問 (Q16) と、労働市場で就職、給与、昇進の面で男女が平等かどうかを問う設問 (Q8) を独自に加えた。

##### (4) 起業志向

チャンスとお金があれば起業したいかどうかを問う設問 (Q18) を採用し、リスク志向やイノベーション

ション志向、積極性を測定する設問は除外した。

(5) 職場における家族主義

自分の勤務先が同族経営かどうかを問う設問を採用したが、質問の形式を、もっとも当てはまる記述を選ぶ形式から、「重要な決定は、経営者の家族や親族によって行われている」に対する賛否を問う形式に改めた（Q38B）。回答者本人の縁故や血縁を問う設問は除外した。

(6) 貯蓄と消費

本人・配偶者の資産総額に関する設問（Q19）と、受けた相続・贈与の額を問う設問（Q20）を採用した。相続・贈与については、資産総額と同様、金額を具体的に問う形式に改めた。

(7) 社会政策争点：世代問題／市場と国家

世代間対立についての意見を問う設問は採用せず、年金の負担と給付の望ましいバランスを問う設問（Q21）と、老後の年金や介護に対する不安を問う設問（Q22）を独自に加えた。市場対国家のトピックについては、EASS モジュールの設問は採用せず、労働組合の必要性についての設問を ISSP から採用した（Q9）。

(8) 健康

身体的健康については、EASS モジュールの設問は採用しなかった。本調査では JGSS が継続的に行っている質問文を採用している。精神的健康についても、プリテストには含めなかったが、本調査では EASS モジュールの設問（EASS 2010 と同じ設問）を採用した。

(9) 雇用状態の変遷

雇用状態については面接票で詳細に尋ねているため、プリテストでは採用せず、これまでにフルタイムで働いた会社の数を問う設問のみ採用した（Q23）。

(10) 求職と就職達成

就職活動で役立つ方法に関する設問は、EASS モジュールでは複数回答となっていたが、プリテストではシングルアンサーとしたうえで採用した（Q40）。また、教育や技能と現在の職の適合性に関する設問を、質問文を改めたうえで採用した（Q42、Q43）。

(11) 仕事外での時間配分

EASS モジュールの設問はプリテストでは採用しなかった。本調査では EASS-2006 の家事分担に関する質問を採用した。

#### 4.3 JGSS-2015 の第 1 回プリテストに組み込んだ JGSS の独自新規設問

JGSS-2015 のプリテストには、上述した科研費の研究課題に関連する設問のうち、新規設問（地域の存続に関する設問）と、これまでの設問から修正する設問（墓の管理に関する設問、カジノやギャンブルに関する設問）も組み込んだ。

地域の存続や墓の管理は社会のサステナビリティに関する問題であるが、同時に時事的な問題でもある。地域の存続の問題は、民間の有識者会議が 2014 年 5 月に、全国の自治体の約半数で少子化や人口流出により行政機能や社会保障の継続が困難になるという見通しを公表して以降、にわかに注目を集めた。この問題に対する人々の認識を問うため、プリテストでは、地域の存続に対する不安感（Q15）や、地域における人口減少・高齢化などの問題に対する深刻さの認識をさまざま側面から具体的に尋ねる設問（Q31：人口の流出、高齢化、鳥獣被害、公共交通機関の便、買い物の便、空き家、耕作放棄地、犯罪）を加えた。

墓の無縁化に関する問題は、2014 年夏ごろから複数のメディアで取り上げられ<sup>(1)</sup>、社会的問題としての認知が広がりつつある。JGSS では、自分の墓について、共同墓や散骨の希望も含めて、2000 年、2001 年、2010 年に尋ねてきた。今回は、自分の墓についての希望（Q28）に加えて、将来の墓の管理に対する見通しを問う設問（Q29）を加えた。

カジノを中心とした統合型リゾートの推進については、2013 年に IR 推進法案が国会に提出され、2014 年の衆議院解散で廃案となったが、再提出が模索されている。大阪商業大学の位置する大阪府は統合



型リゾートの有力な候補地となっている（「読売新聞」2015年2月19日）。一方、カジノの解禁に対してはギャンブル依存症を助長するとの批判も寄せられている。ただし、その批判の根拠となった調査には調査法上の問題が指摘されている（谷岡 2014）。JGSS では、カジノの合法化についての意見を、その議論が高まった時期（2002年、2003年、2008年、2012年）に尋ねている。パチンコを行うの頻度については2000年から2012年までほぼ毎回尋ね、公営ギャンブルについても2002年、2003年、2010年に尋ねている。とくに2002年には、掛け金の額を含めて詳細に尋ねている。ギャンブル依存傾向については、EASS 2010健康モジュールの設問としても尋ねている。JGSS-2015では、これらの設問の一部を組み込み（Q24、Q25）、さらに、ギャンブル依存傾向について、Johnson, Hamer and Nora（1998）の開発した病的ギャンブラーをスクリーニングする“Lie/Bet”設問（Q26、Q27）を加える。

## 5. 第1回プリテストの結果と JGSS-2015 調査票の作成

プリテストの回答の度数分布は、本稿の末尾に示している。JGSS チームは、プリテストの回答分布と回答パターンを基に、個々の設問や選択肢の妥当性を検討した。また、調査票と集計結果を英訳し、EASS の他のチームに報告し、修正案を提示した。これらの資料はモジュールを最終的に確定する2014年11月のソウル GM において検討された（JGSS チームは同会議を欠席している）。

調査票を最終的に確定するまでの検討過程においては、大阪商業大学および京都大学の学部生・大学院生とその家族と知人を対象として、小規模なプリテストをもう一度実施した。第2回プリテストの回収数は、大阪商業大学では18人（うち35歳以上7人）、京都大学では23人（うち35歳以上6人）であった。

### 5.1 JGSS-2015 調査票の確定まで—設問の削除・修正・追加

第1回プリテストに含めたものの、本調査には採用しない項目は表2のグレーの背景の項目である。

EASS モジュールの就職活動の内容については、「その他」の回答の割合が最も高く（回答者の26%）、これらの選択肢では就職活動の状況を把握できないことや、他の設問との優先順位を考慮して、本調査への採用を見送った。

ISSP WO モジュールの設問については、いずれも回答分布の際立った偏りなどはなかったものの、Q6の「職業観」については、「仕事は収入を得るための手段であって、それ以外のなにものでもない」「たとえ、お金を稼ぐ必要がなくても、仕事を持ちたい」といった文章が極端であるという指摘が回答者の自由回答の中に見られた。また、現在の仕事に関する質問に対しては、「会社から意図的に送付されたものではないか」という指摘もあった。これらの事情や他の設問との優先順位を考慮し、ISSP から採用した設問の約半数を本調査において採用しないことを決めた。

集団的自衛権の賛否の設問も本調査では採用しなかった。2014年7月に、集団的自衛権は憲法上禁じられていないとする閣議決定があり、本調査を実施する2015年2月時点においては、設問の設定の仕方が難しく、調査票に加えないこととした。

プリテストの結果とプリテスト後の社会状況の変化などを踏まえて、新たに追加した設問もある。

教育と仕事の関連性は JGSS-2015 調査プロジェクトの主たる研究関心の一つであり、EASS や ISSP の設問に加えて、高校の学科、大学での専攻、専門学校・専修学校での学習分野、さらに、それらの学習が現在の仕事にどれだけ役立っているかを問う設問を新たに追加した（いずれも面接票）。専門学校については、中学校卒業後に通う高等課程の専修学校と高校卒業後に通う専門学校・専修学校との区別が不十分であったため、専門学校・専修学校に通った時期を尋ねる質問を追加した<sup>2)</sup>。このほか、仕事の技能を高めるための教育を受けたかどうかの設問（第1回プリテスト Q47）は質問文を修正し、「教育」に「訓練・研修」も加えて、「教育・訓練・研修」とした。

未婚・晩婚化や少子化の原因を探るための設問も拡大している。面接票の婚姻状態を問う質問で、未婚者（含む離婚・死別）に対して、何歳ごろまでに結婚・再婚したいかを問う設問を加えた。このほか、「スープが冷めない距離」での別居が出生行動に与える影響を探るために、親と別居している場

合にその距離（30分以内で行き来できるかどうか）を尋ねる選択肢を追加した。

また、墓の管理の見通しについては、回答者が先祖の墓を引き継ぐ立場にあるかどうかで回答の意味が異なるため、先祖の墓を引き継ぐ立場にあるかどうかを問う設問を加えた。墓については、生家と嫁ぎ先のどちらの墓を想起するかによって回答が異なる。第2回プリテストでは回答者は混乱することなく回答していたが、本調査では、実家の墓に限定して尋ねる設問とした。なお、第1回プリテストでは共同墓や散骨を希望する理由を尋ねたが、本調査では設問を除外した。墓の問題については、「家」意識と関連があることから、JGSSで過去にも尋ねてきた「夫婦別姓」に関する設問を加えた。

新たに追加したトピックとして、外国人労働者の受け入れの是非や外国人増加の地域的影響に関する設問がある。これらの設問は、JGSS研究センターに新たに参加した眞住優助ポストドクトラル研究員の研究課題であることと、東京オリンピックに向けての環境整備とも関連して、技能実習制度の期間の延長ならびに対象職種の拡大を巡る昨今の活発な議論を背景として、加えることにした。

また、2014年11月には安倍首相が消費税率の再引き上げの延期を発表し、その後、衆議院選挙が行われた。消費税率についての議論に対応して、望ましい消費税率を問う設問を加えた。この設問は2010年と2012年にも尋ねているが、2014年4月の消費税率の引き上げを踏まえ、選択肢を変更した。

このほか、山林所有者の不明化・不在化に対する国土交通省の試算が報道されて以降（「日本経済新聞、2014年9月2日」）、山林の荒廃化が社会的な問題として認知されるようになっていくことを背景として、「山林の維持管理」を「高齢化」や「耕作放棄地の増加」などと並んで居住地域の問題として加えた。また、2014年冬の豪雪災害の多発を受け、災害発生の可能性の設問に「地震」「津波」などと並んで「豪雪」を加えた。

## 5.2 EASSにフィードバックを行い、モジュールが改訂された項目

所得格差について、「所得格差は大きい」を「所得格差は拡大している」と改めるべきとした提案は採用され、モジュールの最終版において採用された。一方、分配の公平性に関する設問がダブルバーレルであるという、前述の指摘は、モジュールの最終バージョンには反映されなかった。

## 6. おわりに

本稿では、EASS 2014 Work Life モジュールを含む JGSS-2015 調査票の作成過程を報告した。今回の調査では、JGSS の調査資金確保の遅れにより、JGSS の意向を早い段階から EASS WL モジュールの確定に反映させることができなかった。また、調査資金の制約により EASS モジュールのための十分な質問票のスペースを用意することができなかったために、EASS のモジュールの項目をすべて反映させることができなかった。また、プリテスト実施後のことではあるが、KGSS が離脱するなど、従来とは異なる事情も生じた。

これらのイレギュラーな事態にも関わらず、EASS モジュールの確定に至ったことは、これまでの4回の調査での経験の蓄積に加え、他チームに先駆けてプリテストを実施した JGSS の貢献は大きいと考える。しかし、今後各チームの継続的な調査実施の見通しが立たない状況が継続するのであれば、調査の企画から実査まで2~3年を要する EASS のプロジェクトを今後継続することは困難になるであろう。各国において、調査の継続的な実施を保証する仕組みを確立していくことが今後求められる。

一方、このような状況下で EASS の WL モジュール、ISSP の WO モジュールから日本の状況についての情報を収集する設問を厳選せざるを得ず、それに関連した JGSS 独自設問を加えたことにより、JGSS-2015 の調査票全体は、結果的に、科研費の研究課題である、「東アジアにおけるワークライフバランスと社会の持続可能性」を追求するためにさまざまな視点から切り込むことのできるものに仕上がっている。

### [Acknowledgment]

日本版 General Social Survey (JGSS) は、大阪商業大学 JGSS 研究センター（文部科学大臣認定日本版

総合社会調査研究拠点)が実施している研究プロジェクトである。JGSS-2015は、JSPS 科研費 26245060 (研究代表:岩井紀子)の助成と大阪商業大学の支援を受けている。

**[注]**

- (1) 2014年7月30日の朝日新聞で大きく取り上げられたほか、2014年10月8日放送のNHK「クローズアップ現代」でも墓の無縁化が特集されている。
- (2) この問題に関しては、阿形健司教授(同志社大学)より、日本の専門学校・専修学校の制度について助言を得た。

**[参考文献]**

- 埴淵知哉, 2009, 「EASS 2010 Health Module の作成—JGSS によるプリテストの結果を中心に—」『日本版総合的社会調査共同研究拠点研究論文集』9: 211-222.
- Johnson, Edward E., Hamer, Robert M., and Nora, Rena M., 1998, “The Lie/Bet Questionnaire for Screening Pathological Gamblers: a Follow-up Study,” *Psychological Reports* 83(3): 1219-24.
- 谷岡一郎, 2014, 「カジノ反対厚労省調査の嘘」『WILL』2014年12月号: 282-291.

JGSS-2015 第1回プリテスト (EASS 2012 Work Life モジュールを含む) の結果 : 度数分布表

Q1. あなたの性別を教えてください。

	度数	パーセント
1 Male	89	53.0
2 Female	78	46.4
合計	167	99.4
9 無回答	1	.6
	168	100.0

Q2. あなたの年齢はこの中のどれにあてはまりますか。

	度数	パーセント
1 25~34歳	27	16.1
2 35~44歳	28	16.7
3 45~54歳	31	18.5
4 55~64歳	40	23.8
5 65~74歳	42	25.0
合計	168	100.0

Q3. あなたが現在、お住まいの地域はどのような地域だと思いますか。1つだけ○をつけてください。

	度数	パーセント
1 大都市の中心部	17	10.1
2 大都市の郊外	25	14.9
3 中小都市	88	52.4
4 町村部	36	21.4
5 人家がまばらな農山漁村	1	.6
合計	167	99.4
9 無回答	1	.6
	168	100.0

Q4. 現在、あなたといっしょに住んでいる方はどなたですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

	選択	非選択	無回答
配偶者	26.8	72.6	.6
子ども	45.8	53.6	.6
親	82.7	16.7	.6
祖父母	96.4	3.0	.6
子どもの配偶者	97.0	2.4	.6
孫	95.2	4.2	.6
配偶者の親	94.0	4.8	.6
その他の親族	95.2	4.8	.6
親族以外の方	98.2	1.2	.6
ひとり暮らし	94.6	4.8	.6

Q5. あなたが最後に通った (または現在通っている) 学校は、次のどれにあたりますか。中退も、卒業と同じ扱いでお答えください。1つだけ○をつけてください。

	度数	パーセント
1 中学校(旧制小学校)	10	6.0
2 高校(旧制中学校・高等女学校・実業学校・師範学校)	72	42.9
3 短大・高専	17	10.1
4 専門学校	22	13.1
5 大学(旧制高校・大学)・大学院	46	27.4
合計	167	99.4
9 無回答	1	.6
	168	100.0

Q6. 次の意見について、あなたは賛成ですか、反対ですか。仕事は収入を得るための手段であって、それ以外のなものでもない

	度数	パーセント
1 強く賛成	17	10.1
2 賛成	51	30.4
3 どちらともいえない	62	36.9
4 反対	27	16.1
5 強く反対	8	4.8
合計	165	98.2
9 無回答	3	1.8
	168	100.0

たとえ、お金を稼ぐ必要がなくても、仕事をもちたい

	度数	パーセント
1 強く賛成	14	8.3
2 賛成	82	48.8
3 どちらともいえない	52	31.0
4 反対	9	5.4
5 強く反対	4	2.4
合計	161	95.8
9 無回答	7	4.2
	168	100.0

Q7. あなたは、仕事をする上で以下の事柄をどの程度重要だと思いますか。働いていない方は、ご自身が働く場合のことを考えてお答えください。

雇用が安定していること

	度数	パーセント
1 非常に重要である	77	45.8
2 重要である	76	45.2
3 どちらともいえない	9	5.4
4 重要ではない	4	2.4
合計	166	98.8
9 無回答	2	1.2
	168	100.0

高収入であること

	度数	パーセント
1 非常に重要である	17	10.1
2 重要である	83	49.4
3 どちらともいえない	59	35.1
4 重要ではない	6	3.6
5 まったく重要ではない	1	.6
合計	166	98.8
9 無回答	2	1.2
	168	100.0

昇進の機会が多いこと

	度数	パーセント
1 非常に重要である	11	6.5
2 重要である	45	26.8
3 どちらともいえない	79	47.0
4 重要ではない	26	15.5
5 まったく重要ではない	5	3.0
合計	166	98.8
9 無回答	2	1.2
	168	100.0

興味ある仕事であること

	度数	パーセント
1 非常に重要である	51	30.4
2 重要である	79	47.0
3 どちらともいえない	28	16.7
4 重要ではない	7	4.2
合計	165	98.2
9 無回答	3	1.8
	168	100.0

干渉されず、独立した仕事であること

	度数	パーセント
1 非常に重要である	8	4.8
2 重要である	40	23.8
3 どちらともいえない	86	51.2
4 重要ではない	30	17.9
5 まったく重要ではない	3	1.8
合計	167	99.4
9 無回答	1	.6
	168	100.0

他の人のためになる仕事であること

	度数	パーセント
1 非常に重要である	21	12.5
2 重要である	76	45.2
3 どちらともいえない	63	37.5
4 重要ではない	6	3.6
合計	166	98.8
9 無回答	2	1.2
	168	100.0

社会にとって有益な仕事であること

	度数	パーセント
1 非常に重要である	23	13.7
2 重要である	80	47.6
3 どちらともいえない	52	31.0
4 重要ではない	7	4.2
5 まったく重要ではない	2	1.2
合計	164	97.6
9 無回答	4	2.4
	168	100.0

働く時間・日などを自分で決定できる仕事であること

	度数	パーセント
1 非常に重要である	17	10.1
2 重要である	65	38.7
3 どちらともいえない	52	31.0
4 重要ではない	30	17.9
5 まったく重要ではない	2	1.2
合計	166	98.8
9 無回答	2	1.2
	168	100.0

人との接触の多い仕事

	度数	パーセント
1 非常に重要である	7	4.2
2 重要である	43	25.6
3 どちらともいえない	81	48.2
4 重要ではない	29	17.3
5 まったく重要ではない	5	3.0
合計	165	98.2
9 無回答	3	1.8
	168	100.0

仕事と家庭生活を両立できること

	度数	パーセント
1 非常に重要である	47	28.0
2 重要である	96	57.1
3 どちらともいえない	19	11.3
4 重要ではない	4	2.4
合計	166	98.8
9 無回答	2	1.2
	168	100.0

仕事上の能力を高められること

	度数	パーセント
1 非常に重要である	28	16.7
2 重要である	95	56.5
3 どちらともいえない	40	23.8
4 重要ではない	3	1.8
合計	166	98.8
9 無回答	2	1.2
	168	100.0

Q8. 現在の日本社会では、仕事に関する以下の点について、女性は男性と同じ扱いを受けていると思いますか。

就職において

	度数	パーセント
1 強く思う	1	.6
2 そう思う	31	18.5
3 どちらともいえない	46	27.4
4 そう思わない	78	46.4
5 強く思わない	11	6.5
合計	167	99.4
9 無回答	1	.6
	168	100.0

給与の面で

	度数	パーセント
1 強く思う	5	3.0
2 そう思う	18	10.7
3 どちらともいえない	49	29.2
4 そう思わない	84	50.0
5 強く思わない	11	6.5
合計	167	99.4
9 無回答	1	.6
	168	100.0

昇進について

	度数	パーセント
1 強くそう思う	5	3.0
2 そう思う	15	8.9
3 どちらともいえない	37	22.0
4 そう思わない	86	51.2
5 強くそう思わない	23	13.7
合計	166	98.8
9 無回答	2	1.2
	168	100.0

Q9. 次の意見について、あなたは賛成ですか、反対ですか。  
従業員の利益を守るためには強い労働組合が必要である

	度数	パーセント
1 強くそう思う	18	10.7
2 そう思う	69	41.1
3 どちらともいえない	69	41.1
4 そう思わない	8	4.8
5 強くそう思わない	2	1.2
合計	166	98.8
9 無回答	2	1.2
	168	100.0

労働組合は日本の経済活動に悪影響を及ぼす

	度数	パーセント
1 強くそう思う	3	1.8
2 そう思う	8	4.8
3 どちらともいえない	105	62.5
4 そう思わない	44	26.2
5 強くそう思わない	6	3.6
合計	166	98.8
9 無回答	2	1.2
	168	100.0

Q10. 過去5年間に、あなたは上司や同僚からハラメントを受けたことはありますか。セクハラに限らず、身体的・精神的苦痛を伴う嫌がらせを含みます。

	度数	パーセント
1 ある	47	28.0
2 ない	93	55.4
3 あてはまらない(過去5年間に仕事をしていない/上司や同僚がいない)	27	16.1
合計	167	99.4
9 無回答	1	.6
	168	100.0

Q11. 現在のあなたの経済状況についてどう思いますか。

	度数	パーセント
1 とても良い	1	.6
2 良い	38	22.6
3 どちらともいえない	66	39.3
4 悪い	50	29.8
5 とても悪い	11	6.5
合計	166	98.8
9 無回答	2	1.2
	168	100.0

Q12. 5年前と比較して、あなたの経済状況はどう変化しましたか。

	度数	パーセント
1 5年前よりずっと良くなった	6	3.6
2 5年前より少し良くなった	28	16.7
3 5年前と同じくらい	50	29.8
4 5年前より少し悪くなった	53	31.5
5 5年前よりずっと悪くなった	28	16.7
合計	165	98.2
9 無回答	3	1.8
	168	100.0

Q13. 今から5年後には、あなたの経済状況はどうなっていると思いますか。

	度数	パーセント
1 今よりずっと良くなる	2	1.2
2 今より少し良くなる	29	17.3
3 今と同じくらい	43	25.6
4 今より少し悪くなる	64	38.1
5 今よりずっと悪くなる	26	15.5
合計	164	97.6
9 無回答	4	2.4
	168	100.0

Q14. 日本では所得格差が大きくなりつつあると思いますか。

	度数	パーセント
1 強くそう思う	42	25.0
2 そう思う	55	32.7
3 どちらかといえばそう思う	56	33.3
4 どちらともいえない	9	5.4
5 どちらかといえばそう思わない	2	1.2
6 そう思わない	1	.6
合計	165	98.2
9 無回答	3	1.8
	168	100.0

Q15. あなたが今お住まいの地域の存続について、不安を感じることはありますか。

	度数	パーセント
1 不安を感じることはまったくない	60	35.7
2 少し不安を感じることもある	68	40.5
3 ある程度不安を感じている	32	19.0
4 非常に不安を感じている	3	1.8
合計	163	97.0
9 無回答	5	3.0
	168	100.0

Q16. あなたは何歳まで仕事をしたいと思いますか。すでに退職されている方は、何歳まで仕事をしたかったですか。

	度数	パーセント
1 50歳くらいまで	5	3.0
2 55歳くらいまで	9	5.4
3 60歳くらいまで	38	22.6
4 65歳くらいまで	56	33.3
5 70歳くらいまで	38	22.6
6 75歳くらいまで	9	5.4
7 76歳以上	8	4.8
合計	163	97.0
9 無回答	5	3.0
	168	100.0

Q17-1. あなたは過去5年間に、ひどくけなされたり、怒鳴(どな)られたりした経験がありますか。

	度数	パーセント
1 はい	63	37.5
2 いいえ	101	60.1
合計	164	97.6
9 無回答	4	2.4
	168	100.0

Q17-2. それは誰からですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

	0 非選択	1 選択	8 非該当
親	32.7	4.8	62.5
配偶者・恋人	22.6	14.9	62.5
子ども	33.3	4.2	62.5
その他の家族・親族	32.1	5.4	62.5
職場の上司	19.0	18.5	62.5
職場の同僚や部下	30.4	7.1	62.5
その他の知人・友人	36.3	1.2	62.5
知らない人	33.3	4.2	62.5

Q18. もしチャンスとお金があれば、自分で会社を始めたいと思いますか

	度数	パーセント
1 強くそう思う	13	7.7
2 そう思う	19	11.3
3 どちらかといえばそう思う	17	10.1
4 どちらともいえない	23	13.7
5 どちらかといえばそう思わない	26	15.5
6 そう思わない	57	33.9
7 強くそう思わない	9	5.4
合計	164	97.6
9 無回答	4	2.4
	168	100.0

Q19. あなたと配偶者が所有している資産(預貯金・株式・不動産などすべて含みます)の総額は時価でどのくらいになりますか。配偶者のいない方はあなた自身の資産についてお答えください。

	度数	パーセント
1 負債が残る	9	5.4
2 なし	13	7.7
3 300万円未満	21	12.5
4 500万円位	19	11.3
5 1000万円位	21	12.5
6 1500万円位	7	4.2
7 2000万円位	16	9.5
8 3000万円位	15	8.9
9 4000万円位	9	5.4
10 5000万円位	6	3.6
11 6000万円位	5	3.0
12 8000万円位	6	3.6
13 1億円～2億円未満	2	1.2
15 わからない	17	10.1
合計	166	98.8
99 無回答	2	1.2
	168	100.0

Q20. あなたとあなたの配偶者は、これまでに、あなたの親または配偶者の親から金銭的援助や土地の贈与を受けたことがありますか(遺産相続も含みます)。総額は時価でおよそどのくらいですか。配偶者のいない方はあなた自身への援助や贈与についてお答えください。

	度数	パーセント
1 なし	75	44.6
2 300万円未満	29	17.3
3 500万円位	14	8.3
4 1000万円位	13	7.7
5 1500万円位	2	1.2
6 2000万円位	8	4.8
7 3000万円位	5	3.0
8 4000万円位	2	1.2
9 5000万円位	3	1.8
10 6000万円位	1	.6
14 わからない	15	8.9
合計	167	99.4
99 無回答	1	.6
	168	100.0

Q21. 公的年金の給付と負担のバランスについて、あなたの考えに近いもの1つに○をつけてください。

	度数	パーセント
1 給付水準を下げて、負担を減らす	31	18.5
2 給付水準をある程度下げて、従来どおりの負担を維持する	56	33.3
3 給付水準を維持して、負担をある程度増やす	54	32.1
4 給付水準を上げて、負担を増やす	22	13.1
合計	163	97.0
9 無回答	5	3.0
	168	100.0

Q22. あなたは以下のことについて、どの程度不安を感じていますか。

A 高齢になり仕事からの収入（配偶者の収入も含む）がなくなった後、年金で生活を維持できるか不安だ

	度数	パーセント
1 とても感じている	89	53.0
2 ある程度感じている	56	33.3
3 あまり感じていない	17	10.1
4 まったく感じていない	2	1.2
合計	164	97.6
9 無回答	4	2.4
	168	100.0

B 高齢になって体が不自由になった時に、家族・親族の介護を受けられるか不安だ

	度数	パーセント
1 とても感じている	59	35.1
2 ある程度感じている	75	44.6
3 あまり感じていない	29	17.3
合計	163	97.0
9 無回答	5	3.0
	168	100.0

C 高齢になって体が不自由になった時に、十分な介護サービスを利用できるか不安だ

	度数	パーセント
1 とても感じている	75	44.6
2 ある程度感じている	71	42.3
3 あまり感じていない	18	10.7
合計	164	97.6
9 無回答	4	2.4
	168	100.0

Q23. あなたは、これまで正規の社員・職員として、いくつの会社・組織で働きましたか。

	度数	パーセント
1 0社	7	4.2
2 1社	71	42.3
3 2社	42	25.0
4 3社	28	16.7
5 4社	5	3.0
6 5社	9	5.4
7 6社以上	3	1.8
合計	165	98.2
9 無回答	3	1.8
	168	100.0

Q24. 現在いくつかの自治体や国会において、カジノの合法化に関する議論が起こっています。あなたは賛成ですか、反対ですか。1つだけ○をつけてください。

	度数	パーセント
1 日本でのカジノの合法化に反対	55	32.7
2 特定の場所に限定するならば、カジノの合法化に賛成	61	36.3
3 場所にかかわらず、カジノの合法化に賛成	6	3.6
4 賛成とも反対とも決められない	22	13.1
5 カジノについて、よく知らない	21	12.5
合計	165	98.2
9 無回答	3	1.8
	168	100.0

Q25. あなたは過去1年間に、以下の事項を何回くらい行ないましたか。

A 公営ギャンブル（競馬、競輪、競艇など）. 1日に複数レースに賭けた場合も1回と数えます。

	度数	パーセント
1 賭けなかった	148	88.1
2 1~2回	6	3.6
3 3~5回	3	1.8
4 6~10回	3	1.8
5 11~20回	3	1.8
6 21回以上	4	2.4
合計	167	99.4
9 無回答	1	.6
	168	100.0

B パチンコ・パチスロ

	度数	パーセント
1 やらなかつた	142	84.5
2 1年に数回	10	6.0
3 月に1回程度	5	3.0
4 週に1回程度	8	4.8
5 週に2~3回以上	3	1.8
合計	168	100.0

Q26. あなたは過去1年間に、ギャンブルで使った（賭けた）金額に関して、あなたにとって重要な人にウソをつかざるをえなかったことがありますか。パチンコ・パチスロも含みます。

	度数	パーセント
1 ある	6	3.6
2 ない	161	95.8
合計	167	99.4
9 無回答	1	.6
	168	100.0

Q27. あなたはもっとギャンブルを行う回数を増やしたり、大きな金額の賭けが必要だと感じたことがありますか。

	度数	パーセント
1 ある	5	3.0
2 ない	162	96.4
合計	167	99.4
9 無回答	1	.6
	168	100.0



Q28-1. 最近、墓についていろいろな議論がなされていますが、あなた自身の墓について、どのようにお考えですか。1つだけ○をつけてください。

	度数	パーセント
1 私の家(実家)の墓に入りたい	71	42.3
2 配偶者の家の墓に入りたい	22	13.1
3 自分と配偶者の代から始まる墓に入りたい	17	10.1
4 自分と配偶者だけの墓に入りたい(ロッカー式の納骨堂を含む)	9	5.4
6 合葬式の共同墓(家族以外の人々を含む)に入りたい	13	7.7
7 墓に入らず、海や山への散骨にしたい	34	20.2
合計	166	98.8
9 無回答	2	1.2
	168	100.0

Q28-2. 「共同墓に入りたい」あるいは「墓に入らず散骨にしたい」の理由はなぜですか。あてはまるものすべてに○をつけて下さい。

	非選択	選択	非該当
家または個人の墓に入りたいが、墓を守る人がいない	25.0	3.6	70.8
家または個人の墓に入りたいが、墓のことで子どもをわずらわせたくない	19.0	8.9	71.4
自然にかえりたい	20.2	7.7	71.4
家または個人の墓に意味が見いだせない	19.0	8.9	71.4
その他	25.0	3.0	71.4

Q29. あなたの墓の維持・管理は誰に頼みたいですか。1つだけ○をつけてください。

	度数	パーセント
1 子どもなどの子孫	104	61.9
2 子どもなどの子孫以外の親族	6	3.6
3 寺や教会	7	4.2
4 自治体	2	1.2
6 民間の管理サービスを利用	8	4.8
7 維持・管理が必要な墓は作らない	24	14.3
8 その他	4	2.4
合計	155	92.3
9 無回答	13	7.7
	168	100.0

Q30. 平成 26 年 7 月に安倍内閣が、集団的自衛権を合憲とする見解を閣議決定しました。あなたは、集団的自衛権を合憲とする見解に賛成ですか、反対ですか。

	度数	パーセント
1 賛成	23	13.7
2 どちらかといえば賛成	47	28.0
3 どちらかといえば反対	48	28.6
4 反対	47	28.0
合計	165	98.2
9 無回答	3	1.8
	168	100.0

Q31. あなたがお住まいの地域で、次の問題はどの程度深刻ですか。

A 人口の流出

	度数	パーセント
1 とても深刻	18	10.7
2 ある程度深刻	43	25.6
3 あまり深刻ではない	84	50.0
4 まったく深刻ではない	23	13.7
合計	168	100.0

B 高齢化

	度数	パーセント
1 とても深刻	46	27.4
2 ある程度深刻	85	50.6
3 あまり深刻ではない	33	19.6
4 まったく深刻ではない	2	1.2
合計	166	98.8
9 無回答	2	1.2
	168	100.0

C 鳥や獣(イノシシ、シカなど)による被害

	度数	パーセント
1 とても深刻	9	5.4
2 ある程度深刻	28	16.7
3 あまり深刻ではない	75	44.6
4 まったく深刻ではない	53	31.5
合計	165	98.2
9 無回答	3	1.8
	168	100.0

D 公共交通機関の不便さ

	度数	パーセント
1 とても深刻	17	10.1
2 ある程度深刻	49	29.2
3 あまり深刻ではない	67	39.9
4 まったく深刻ではない	34	20.2
合計	167	99.4
9 無回答	1	.6
	168	100.0

E 買い物の不便さ(店が遠いなど)

	度数	パーセント
1 とても深刻	11	6.5
2 ある程度深刻	32	19.0
3 あまり深刻ではない	75	44.6
4 まったく深刻ではない	48	28.6
合計	166	98.8
9 無回答	2	1.2
	168	100.0

F 空き家の増加

	度数	パーセント
1 とても深刻	11	6.5
2 ある程度深刻	39	23.2
3 あまり深刻ではない	89	53.0
4 まったく深刻ではない	29	17.3
合計	168	100.0

G 耕作放棄地の増加

	度数	パーセント
1 とても深刻	12	7.1
2 ある程度深刻	36	21.4
3 あまり深刻ではない	74	44.0
4 まったく深刻ではない	46	27.4
合計	168	100.0

H 犯罪の増加

	度数	パーセント
1 とても深刻	14	8.3
2 ある程度深刻	53	31.5
3 あまり深刻ではない	87	51.8
4 まったく深刻ではない	11	6.5
合計	165	98.2
9 無回答	3	1.8
	168	100.0

I 大気汚染

	度数	パーセント
1 とても深刻	12	7.1
2 ある程度深刻	37	22.0
3 あまり深刻ではない	93	55.4
4 まったく深刻ではない	26	15.5
合計	168	100.0

J 水質汚染

	度数	パーセント
1 とても深刻	6	3.6
2 ある程度深刻	34	20.2
3 あまり深刻ではない	101	60.1
4 まったく深刻ではない	27	16.1
合計	168	100.0

K 土壌汚染

	度数	パーセント
1 とても深刻	5	3.0
2 ある程度深刻	29	17.3
3 あまり深刻ではない	105	62.5
4 まったく深刻ではない	29	17.3
合計	168	100.0

Q32. 家計の管理のことについておたずねします。配偶者のいる方は、収入を御夫婦でどのように管理していますか。1つだけ○をつけてください。

	度数	パーセント
1 夫のこづかい以外は、妻がすべて管理している	90	53.6
2 妻のこづかい以外は、夫がすべて管理している	3	1.8
3 日常の支出以外は、夫が管理している	10	6.0
4 すべての収入をひとつにまとめていて、夫と妻はそれぞれ必要な額をそこから支出している	12	7.1
5 夫と妻の収入を一部は一緒にしているが、大部分は夫と妻が別々に管理している	7	4.2
6 夫と妻は、それぞれの収入を別々に管理している	6	3.6
7 配偶者はいない	39	23.2
合計	167	99.4
9 無回答	1	.6
	168	100.0

Q33. 先週、あなたは収入をとまなう仕事をしましたか、または仕事をするようになっていましたか。この中からあげてください。2つ以上仕事をおもちの方は、主な仕事1つについてお答えください。

	度数	パーセント
1 仕事をした	112	66.7
2 仕事をもっているが、病気、休暇などで先週は仕事を休んだ	5	3.0
3 仕事をしていない	51	30.4
合計	168	100.0

Q34. あなたの従業上の地位は、次のどれにあたりますか。

	度数	パーセント
1 経営者・役員	7	4.2
2 常時雇用の職員・従業者	48	28.6
3 パート・アルバイト	32	19.0
4 派遣社員・契約社員・嘱託	13	7.7
5 自営業主・自由業者	8	4.8
6 自家営業の手伝い	3	1.8
7 内職	2	1.2
8 その他	3	1.8
合計	116	69.0
88 非該当	51	30.4
99 無回答	1	.6
	52	31.0
	168	100.0

Q35. あなたの職場には、正社員や正規職員でない人（派遣社員、契約社員、パート、アルバイト、臨時雇用）が、どれくらいいますか。

	度数	パーセント
1 0～1割くらい	45	26.8
2 2～4割くらい	31	18.5
3 5割くらい	7	4.2
4 6～8割くらい	17	10.1
5 9～10割くらい	13	7.7
合計	113	67.3
8 非該当	51	30.4
9 無回答	4	2.4
	168	100.0

Q36. あなたの職場で働いている人のうち、女性の割合はどれくらいですか。正社員や正規職員でない人も含めてお答えください。

	度数	パーセント
1 0～1割くらい	37	22.0
2 2～4割くらい	29	17.3
3 5割くらい	13	7.7
4 6～8割くらい	26	15.5
5 9～10割くらい	9	5.4
合計	114	67.9
8 非該当	51	30.4
9 無回答	3	1.8
	168	100.0

Q37. あなたの現在の仕事上の収入は、以下のそれぞれの観点から見て、もらいすぎだと思えますか。それとも不十分だと思えますか。

A 仕事上の能力

	度数	パーセント
1 もらいすぎ	1	.6
2 どちらかといえばもらいすぎ	5	3.0
3 丁度よい	56	33.3
4 どちらかといえば不十分	41	24.4
5 不十分	14	8.3
合計	117	69.6
8 非該当	51	30.4
	168	100.0

B 仕事に対する姿勢や努力

	度数	パーセント
2 どちらかといえばもらいすぎ	7	4.2
3 丁度よい	59	35.1
4 どちらかといえば不十分	38	22.6
5 不十分	12	7.1
合計	116	69.0
8 非該当	51	30.4
9 無回答	1	.6
	168	100.0

C 労働時間

	度数	パーセント
2 どちらかといえばもらいすぎ	4	2.4
3 丁度よい	76	45.2
4 どちらかといえば不十分	25	14.9
5 不十分	11	6.5
合計	116	69.0
8 非該当	51	30.4
9 無回答	1	.6
	168	100.0

D 仕事の成果

	度数	パーセント
2 どちらかといえばもらいすぎ	5	3.0
3 丁度よい	67	39.9
4 どちらかといえば不十分	32	19.0
5 不十分	11	6.5
合計	115	68.5
8 非該当	51	30.4
9 無回答	2	1.2
	168	100.0

E 仕事における責任の重さ

	度数	パーセント
1 もらいすぎ	1	.6
2 どちらかといえばもらいすぎ	11	6.5
3 丁度よい	65	38.7
4 どちらかといえば不十分	22	13.1
5 不十分	17	10.1
合計	116	69.0
8 非該当	51	30.4
9 無回答	1	.6
	168	100.0

F 仕事における経験

	度数	パーセント
1 もらいすぎ	1	.6
2 どちらかといえばもらいすぎ	6	3.6
3 丁度よい	72	42.9
4 どちらかといえば不十分	24	14.3
5 不十分	13	7.7
合計	116	69.0
8 非該当	51	30.4
9 無回答	1	.6
	168	100.0

G 学歴

	度数	パーセント
2 どちらかといえばもらいすぎ	4	2.4
3 丁度よい	84	50.0
4 どちらかといえば不十分	22	13.1
5 不十分	6	3.6
合計	116	69.0
8 非該当	51	30.4
9 無回答	1	.6
	168	100.0

Q38. 以下の事柄は、あなたのお勤め先にとどの程度あてはまりますか。

A 人事上の決定は、それによって影響を受ける従業員の意見を反映していない

	度数	パーセント
1 強くそう思う	16	9.5
2 そう思う	35	20.8
3 どちらともいえない	40	23.8
4 そう思わない	20	11.9
5 強くそう思わない	2	1.2
合計	113	67.3
8 非該当	51	30.4
9 無回答	4	2.4
	168	100.0

## B 重要な決定は、経営者の家族や親族によって行われている

	度数	パーセント
1 強くそう思う	12	7.1
2 そう思う	29	17.3
3 どちらともいえない	27	16.1
4 そう思わない	27	16.1
5 強くそう思わない	18	10.7
合計	113	67.3
8 非該当	51	30.4
9 無回答	4	2.4
	168	100.0

## C 仕事の分担について、家族の事情（育児や介護など）を考慮してもらえる

	度数	パーセント
1 強くそう思う	8	4.8
2 そう思う	48	28.6
3 どちらともいえない	39	23.2
4 そう思わない	14	8.3
5 強くそう思わない	3	1.8
合計	112	66.7
8 非該当	51	30.4
9 無回答	5	3.0
	168	100.0

## D 給与は、仕事の成果よりも年功序列に基づいている

	度数	パーセント
1 強くそう思う	7	4.2
2 そう思う	23	13.7
3 どちらともいえない	30	17.9
4 そう思わない	46	27.4
5 強くそう思わない	7	4.2
合計	113	67.3
8 非該当	51	30.4
9 無回答	4	2.4
	168	100.0

## E 従業員が不足気味で多忙である

	度数	パーセント
1 強くそう思う	19	11.3
2 そう思う	33	19.6
3 どちらともいえない	38	22.6
4 そう思わない	20	11.9
5 強くそう思わない	3	1.8
合計	113	67.3
8 非該当	51	30.4
9 無回答	4	2.4
	168	100.0

## F 女性が管理職として働きやすい

	度数	パーセント
1 強くそう思う	3	1.8
2 そう思う	20	11.9
3 どちらともいえない	53	31.5
4 そう思わない	28	16.7
5 強くそう思わない	9	5.4
合計	113	67.3
8 非該当	51	30.4
9 無回答	4	2.4
	168	100.0

## G 私的な用事でもまとまった休暇をとれる

	度数	パーセント
1 強くそう思う	11	6.5
2 そう思う	44	26.2
3 どちらともいえない	28	16.7
4 そう思わない	22	13.1
5 強くそう思わない	9	5.4
合計	114	67.9
8 非該当	51	30.4
9 無回答	3	1.8
	168	100.0

## Q39. あなたは、以下のような理由で仕事を1週間連続して休むことができますか。

## A 家族の世話（育児や介護など）

	度数	パーセント
1 容易にできる	16	9.5
2 できる	56	33.3
3 難しい	31	18.5
4 とても難しい	12	7.1
合計	115	68.5
8 非該当	51	30.4
9 無回答	2	1.2
	168	100.0

## B 旅行など自分の趣味のため

	度数	パーセント
1 容易にできる	14	8.3
2 できる	32	19.0
3 難しい	44	26.2
4 とても難しい	24	14.3
合計	114	67.9
8 非該当	51	30.4
9 無回答	3	1.8
	168	100.0

## C 自分の体調が悪い時

	度数	パーセント
1 容易にできる	20	11.9
2 できる	66	39.3
3 難しい	21	12.5
4 とても難しい	8	4.8
合計	115	68.5
8 非該当	51	30.4
9 無回答	2	1.2
	168	100.0

Q40. あなたは、現在の仕事につくために、どのような就職活動をしましたか。就職に結びついたもの1つに○をつけてください。

	度数	パーセント
1 家族や親戚の紹介	11	6.5
2 友人や知人の紹介	23	13.7
3 学校推薦・研究室(ゼミ)推薦枠を利用	5	3.0
4 学校に来ていた求人情報を見て直接応募	8	4.8
5 インターネットの就職サイトを見て直接応募	7	4.2
6 求人広告や雑誌などを見て直接応募	11	6.5
7 公共職業安定所(ハローワーク)の紹介	16	9.5
8 民間の職業紹介機関の紹介	4	2.4
9 その他	30	17.9
合計	115	68.5
88 非該当	51	30.4
99 無回答	2	1.2
	168	100.0

Q41. 次のことは、現在の仕事にどれほど役立っていますか。

A 学校教育で学んだこと

	度数	パーセント
1 とても役立っている	11	6.5
2 ある程度役立っている	45	26.8
3 あまり役立っていない	47	28.0
4 ほとんど役立っていない	13	7.7
8 非該当	51	30.4
合計	167	99.4
9 無回答	1	.6
	168	100.0

B これまでの仕事で身につけた経験や技能

	度数	パーセント
1 とても役立っている	35	20.8
2 ある程度役立っている	62	36.9
3 あまり役立っていない	17	10.1
4 ほとんど役立っていない	3	1.8
8 非該当	51	30.4
合計	168	100.0

Q42. あなたが受けた学校教育は、あなたの現在の職務内容に見合っていると思いますか。

	度数	パーセント
1 見合っている	51	30.4
2 現在の職務内容に求められる以上の学校教育を受けた	25	14.9
3 現在の職務内容に求められるほどの学校教育を受けていない	39	23.2
8 非該当	51	30.4
合計	166	98.8
9 無回答	2	1.2
	168	100.0

Q43. あなたの仕事上の能力は、あなたの現在の職務内容に見合っていると思いますか。

	度数	パーセント
1 見合っている	80	47.6
2 現在の職務内容に求められる以上の能力をもっていると思う	23	13.7
3 現在の職務内容に求められる能力をもっていないと思う	14	8.3
8 非該当	51	30.4
合計	168	100.0

Q44. あなたの現在の主な仕事からの収入と労働時間について選べるとしたら、以下の3つのうちどれですか。

	度数	パーセント
1 今より労働時間が長くなっても、収入が多いほうがよい	29	17.3
2 今と同じくらいの労働時間と収入でよい	76	45.2
3 今より収入が少なくなっても、労働時間が短いほうがよい	11	6.5
8 非該当	51	30.4
合計	167	99.4
9 無回答	1	.6
	168	100.0

Q45. 以下の項目は、あなたの現在の仕事にどの程度あてはまりますか。

A 雇用が安定している

	度数	パーセント
1 よくあてはまる	18	10.7
2 あてはまる	42	25.0
3 どちらともいえない	42	25.0
4 あてはまらない	12	7.1
5 まったくあてはまらない	1	.6
8 非該当	51	30.4
合計	166	98.8
9 無回答	2	1.2
	168	100.0

B 高収入である

	度数	パーセント
1 よくあてはまる	1	.6
2 あてはまる	12	7.1
3 どちらともいえない	50	29.8
4 あてはまらない	39	23.2
5 まったくあてはまらない	14	8.3
8 非該当	51	30.4
合計	167	99.4
9 無回答	1	.6
	168	100.0

C 昇進の機会が多い

	度数	パーセント
1 よくあてはまる	1	.6
2 あてはまる	10	6.0
3 どちらともいえない	40	23.8
4 あてはまらない	38	22.6
5 まったくあてはまらない	27	16.1
8 非該当	51	30.4
合計	167	99.4
9 無回答	1	.6
	168	100.0

D 興味ある仕事である

	度数	パーセント
1 よくあてはまる	8	4.8
2 あてはまる	36	21.4
3 どちらともいえない	46	27.4
4 あてはまらない	18	10.7
5 まったくあてはまらない	7	4.2
8 非該当	51	30.4
合計	166	98.8
9 無回答	2	1.2
	168	100.0

E 干渉されず、独立した仕事である

	度数	パーセント
1 よくあてはまる	6	3.6
2 あてはまる	23	13.7
3 どちらともいえない	35	20.8
4 あてはまらない	39	23.2
5 まったくあてはまらない	13	7.7
8 非該当	51	30.4
合計	167	99.4
9 無回答	1	.6
	168	100.0

F 他の人のためになる仕事である

	度数	パーセント
1 よくあてはまる	22	13.1
2 あてはまる	50	29.8
3 どちらともいえない	27	16.1
4 あてはまらない	12	7.1
5 まったくあてはまらない	2	1.2
8 非該当	51	30.4
合計	164	97.6
9 無回答	4	2.4
	168	100.0

G 社会にとって有益な仕事である

	度数	パーセント
1 よくあてはまる	23	13.7
2 あてはまる	45	26.8
3 どちらともいえない	32	19.0
4 あてはまらない	11	6.5
5 まったくあてはまらない	2	1.2
8 非該当	52	31.0
合計	165	98.2
9 無回答	3	1.8
	168	100.0

H 働く時間・日などを自分で決定できる仕事である

	度数	パーセント
1 よくあてはまる	5	3.0
2 あてはまる	28	16.7
3 どちらともいえない	30	17.9
4 あてはまらない	35	20.8
5 まったくあてはまらない	18	10.7
8 非該当	51	30.4
合計	167	99.4
9 無回答	1	.6
	168	100.0

I 人との接触の多い仕事

	度数	パーセント
1 よくあてはまる	35	20.8
2 あてはまる	42	25.0
3 どちらともいえない	22	13.1
4 あてはまらない	11	6.5
5 まったくあてはまらない	4	2.4
8 非該当	51	30.4
合計	165	98.2
9 無回答	3	1.8
	168	100.0

J 仕事と家庭生活を両立できる

	度数	パーセント
1 よくあてはまる	14	8.3
2 あてはまる	57	33.9
3 どちらともいえない	37	22.0
4 あてはまらない	5	3.0
5 まったくあてはまらない	3	1.8
8 非該当	51	30.4
合計	167	99.4
9 無回答	1	.6
	168	100.0

K 仕事上の能力を高められる

	度数	パーセント
1 よくあてはまる	12	7.1
2 あてはまる	41	24.4
3 どちらともいえない	50	29.8
4 あてはまらない	9	5.4
5 まったくあてはまらない	4	2.4
8 非該当	51	30.4
合計	167	99.4
9 無回答	1	.6
	168	100.0

Q46. あなたは、次のような事柄をどの程度頻繁に感じますか。

A 仕事が家庭生活の妨げになること

	度数	パーセント
1 いつも感じる	5	3.0
2 よく感じる	18	10.7
3 時々感じる	40	23.8
4 ほとんど感じない	45	26.8
5 まったく感じない	6	3.6
8 非該当	51	30.4
合計	165	98.2
9 無回答	3	1.8
	168	100.0

B 家庭生活が仕事の妨げになること

	度数	パーセント
1 いつも感じる	1	.6
2 よく感じる	4	2.4
3 時々感じる	30	17.9
4 ほとんど感じない	66	39.3
5 まったく感じない	13	7.7
8 非該当	51	30.4
合計	165	98.2
9 無回答	3	1.8
	168	100.0

Q47. この1年間に、あなたは職場やそれ以外の場所で、仕事の技能を高めるための教育を受けたことがありますか。

	度数	パーセント
1 ある	47	28.0
2 ない	69	41.1
8 非該当	51	30.4
合計	167	99.4
9 無回答	1	.6
	168	100.0

Q48 あなたは以下の意見について、どう思いますか。

A 今の会社や組織が発展するように、与えられた以上の仕事を進んでほしい

	度数	パーセント
1 強くそう思う	12	7.1
2 そう思う	43	25.6
3 どちらともいえない	42	25.0
4 そう思わない	17	10.1
5 強くそう思わない	51	30.4
合計	165	98.2
9 無回答	3	1.8
	168	100.0

B 今の会社や組織で働いていることに誇りを感じる

	度数	パーセント
1 強くそう思う	11	6.5
2 そう思う	34	20.2
3 どちらともいえない	48	28.6
4 そう思わない	19	11.3
5 強くそう思わない	2	1.2
合計	114	98.2
8 非該当	51	30.4
9 無回答	3	1.8
	168	100.0

Q49. あなたは、今の仕事にどのくらい満足していますか。

	度数	パーセント
1 完全に満足している	2	1.2
2 満足している	21	12.5
3 どちらかといえば満足している	46	27.4
4 どちらともいえない	25	14.9
5 どちらかといえば不満である	9	5.4
6 不満である	9	5.4
7 まったく不満である	4	2.4
合計	116	99.4
8 非該当	51	30.4
9 無回答	1	.6
	168	100.0